

## 赤こんりポート

松村美沙枝リポーター

親子をそっと包み込む  
優しい音色と歌声のコンサート

10月2日、安土コミュニティセンターで市子育て支援登録団体「こねこねこ」主催のキッズコンサートが開催されました。こねこねこはコロナ禍で出産を経験したママが立ち上げた団体。考えてもみなかった不安の多い産前産後期を過ごす中で「今日もありがとう、楽しかったね」と親子で思える時間を少しでも多く持てるよう活動されています。代表の森口さんはクラシックコンサートなどで活躍する歌手。心に染みる歌声に、参加した親子もリラックスして音色をたのしんでいるようでした。

## 赤こんりポート

東恵子リポーター



## 小さいうちからの性教育で自尊感情UP！

パパもママも子どもたちも一緒に学ぼう！「ぼくとわたしのからだのこと」というオンライン講座が10月3日に開かれました。NPO法人Mom'sfunが主催する〇〇カフェに参加していたママたちのサークル「ママミーティング部」が企画し、助産師の松本奈津美さんを講師に招きました。自宅できつろぎながら2～3歳の子どもたちも参加。「くち、むね、おしり、せいぎ」といったプライベートゾーンの大切さや「自分は大事な宝物」だと絵本の読み聞かせを通して教えてくれました。赤ちゃんの頃からのスキンシップで「大好きだよ」「大切な存在だよ」「愛してるよ」という日常の空気感が性教育の始まりだと、松本さんは話していました。この日の講座は夜の部もあり、コロナ禍の中でも工夫して学び合うお母さんたちのたくましさを知恵を感じました。



## 赤こんりポート

今井良治リポーター

岡山小5年生が稲刈り体験  
実りの秋を実感

市内各地で稲刈りが終盤を迎えた9月29日、岡山小学校の5年生約90人が、学校近くの田んぼで秋晴れの下、地元の加茂営農組合の役員をはじめグリーン近江農協職員や農業委員などの手助けを受けながら、黄金色に実った米の収穫を体験しました。新型コロナウイルス感染対策から、3密を避けクラスごとに3回に分けて実施されました。児童たちは、はじめに営農組合理事の中村治一さんから、一粒の<sup>もみ</sup>穂が成長して約千粒の<sup>もみ</sup>穂が実ることや稲を刈るときの株の持ち方や鎌の扱い方などを学んだあと、実際に鎌を持って田んぼに入り、5月末に自分たちが植えた稲を一株ずつついでいねいに刈り取ったり、ずっしり重い稲の束をコンバインまで運んだりして、実りの秋を実感していました。

9月27日

ゆるキャラ7体が愛らしく交通安全呼び掛け  
近江八幡警察署前で啓発活動を実施

近江八幡地区交通安全協会と近江八幡警察署が、秋の全国交通安全運動の一環として、近江八幡警察署前の歩道で、ご当地ゆるキャラとともに交通事故防止の啓発活動を行いました。この日は、本市のマスコットキャラクター「赤コン君」や同協会の「よしこちゃん」、近江八幡観光物産協会の「らんまる君」「ぼうまる君」「りきまる君」など7体が集結。参加者が「交通安全運動実施中」「交通安全」と書かれたのぼり旗を掲げる中、7体のゆるキャラたちが愛らしく手を振り、ドライバーや歩行者に安全運転を呼び掛けました。

10月14日

船の上からカイツブリ発見  
西の湖探検学習船

安土小学校4年生が西の湖すてーしょん和船部のレクチャーのもと、漁で使われた道具の使用方法やヨシや貝の浄化作用を学んだり、実際に船に乗って湖上を観察したりして、西の湖の環境体験学習を行いました。この学習は、地元の漁師が、西の湖の環境について実際に触れながら学んでもらいたいと平成6年に始められ、現在は、西の湖すてーしょん和船部に引き継がれました。船の上からサギや鶺鴒、カイツブリなども観察することができ、子どもたちは興奮しながら、湖の生物を観察していました。

10月13日

道路の美化清掃を続け16年  
国土交通大臣から感謝状

本市を拠点に活動する市民団体「琵琶湖畔の景観を良くする会」が国土交通大臣表彰を受け、小西市長に報告を行いました。同会は、平成17年から毎月第一月曜日に、琵琶湖畔の道路整備や清掃活動を行ってきました。メンバーは現在26人で、「いつでも、どこからでも水辺に近づけて飲めるみずに」をスローガンに活動されています。中江洋二郎会長は、「立派なことをしてるとは思ってなかったが、今回表彰されたのは名誉なことだと思う。今後も継続していくことが大切」と話していました。

9月16日

地域おこし協力隊に  
新しい仲間が  
加わりました

ドイツ出身のノイマン マーティンさんは、令和元年6月から京都でツアーガイドとして活躍。9月から協力隊として、市内に住みながら観光関係団体や地域住民と連携し、持続可能な観光地域づくりに向けた地域活動に取り組んでいます。今後、国内や海外観光客向けのホームステイ事業、バーチャルツーリズム事業を行います。ノイマンさんは、「ツアーガイドは日本にも多くいるが、東京や京都ばかりで近江八幡にはまだまだ少ないと感じる。近江八幡の田園や寺社、祭りといった日本らしい魅力を発信していきたい」と抱負を語っていました。



10月6日



## 小西市長が白寿の祝いに敬老訪問

小西市長が毎年恒例の白寿(99歳)を本年度中に迎える市民の訪問を行い、長寿をお祝いしました。訪問を受けた中村町の川崎貞夫さんは、太平洋戦争で旧満州に出征し、終戦後シベリアに抑留され、収容所では毎日の重労働に加え、マイナス40度の寒さに極度の飢えを強いられた経験を持ちます。市長からお祝いの品を受け取った川崎さんは、「こんなに長生きするとは夢にも思わなかった。ありがたいことです」とお礼を述べ、「無理せんとのおんびり、くよくよしないこと」と長寿の秘訣について話していました。